

# にんぎょうとうげ



発行： 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構  
バックエンド研究開発部門  
人形峠環境技術センター 総務課  
岡山県苫田郡鏡野町上齋原1550番地  
電話 0868-44-2211 FAX 0868-44-2502

## 平成30年 年頭ご挨拶



人形峠環境技術センター  
所長 青瀬 晋一

新しい年を迎えて3点話をしたいと思います。  
まず1点目です。今年も安全を最優先に仕事をすることです。

作業に絶対安全はありません。いかに努力してもトラブルゼロにならないかもしれません。しかしゼロに向けての不断の努力は絶対に必要です。昨年6月6日大洗研究開発センターの燃料研究棟で汚染事故が発生しました。内容物の分からない容器を開封する作業での汚染事故であり、作業前のリスク評価、他拠点の類似事象の水平展開、マニュアルへの記載、除染対応等いろいろな問題点が浮き彫りになりました。

我々は、失敗から学ばなければなりません。一度犯した過ちは二度と繰り返さぬよう、また問いかけ改善する姿勢は常に持ち続けて日々の業務を進めましょう。

2点目です。当センターの使命は施設の廃止措置及び鉱山跡措置です。これを確実に進め、成果を上げていくということです。昨年、もんじゅについては6月13日文科省に「廃止措置に関する基本的な計画」を提出、

また東海再処理施設については6月30日原子力規制委員会に「廃止措置計画認可申請」をしました。このように今後は、廃止措置に向けた取り組みが、ますます重要となってきます。当センターでも、廃止措置に向けた取り組みとして、「ウランと環境研究プラットフォーム」構想(事業計画案)を一昨年公表しました。そして、昨年は、この構想について懇話会を通じて地域の方々や有識者の方々からご意見・ご提言を頂きました。我々は、今後これらのご意見・ご提言を踏まえて具体的な研究開発計画を策定し、確実に実行し、成果を上げていかなければなりません。具体的な成果を出すにはどうしたらよいかをしっかりと考え実行していきましょう。そして自分たちの仕事に責任と誇りを持ってとりくんでいきましょう。

3点目です。やるべきことをきちんとやろうということです。昨年4月、私が所長になって初めての挨拶で「研究開発であれ安全であれ、すべてに対して、各個人が、今現在、または将来、様々な業務、様々な場面で自分は何をやるべきかをしっかりと考え、行動・実践することをお願いします」、「やるべきことをきちんとやる人がプロだと思います」、「やるべきことをやって、最後に笑おう」と話しましたが、皆さんはどうだったでしょうか？ 昨年は笑顔で終われたのでしょうか？

「昨年笑顔で終われた方は、今年もまた笑顔で終われるように」「笑顔で終われなかった方は今年も笑顔で終われるように」。

それを祈念して、私の年頭挨拶とさせていただきます。

## 人形峠自然百景

『初雪』

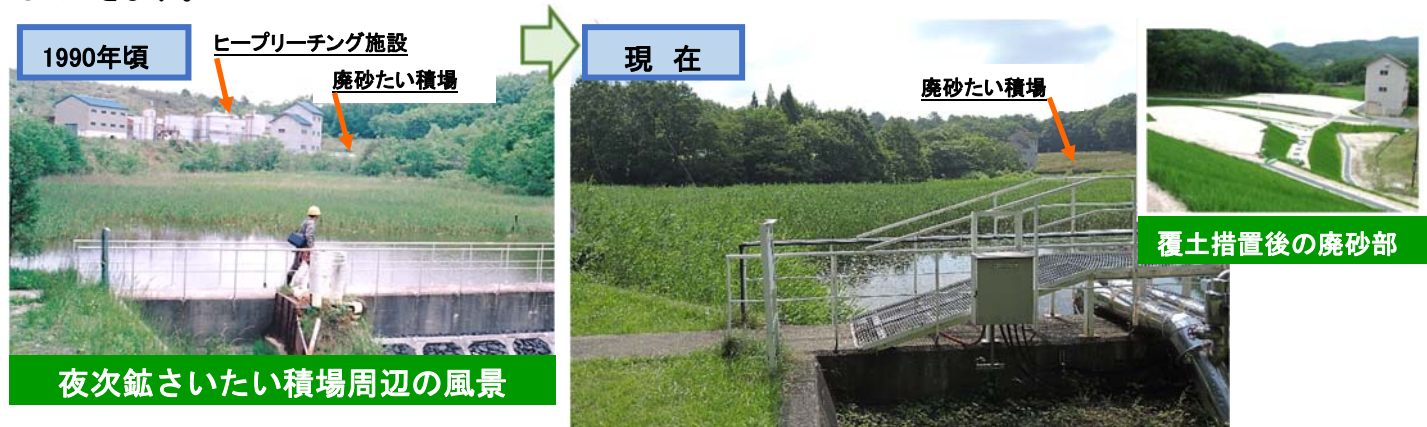
今シーズンは11月17日に初雪が降り、約10cmの積雪となった。  
例年、10月下旬から11月下旬にかけて初雪が見られ、丁度、紅葉と入れ替わるように景色が色変わりする。  
紅葉と雪のコントラストが楽しめるのも人形峠の風物詩である。



# シリーズ 人形峠 今昔物語

## ～第5回「核燃料の技術開発から廃止措置へ(2001年～)」～

これまで、核燃料サイクルの前半部分を担当してきた人形峠の移り変わりを紹介してきました。今回は、ウラン濃縮原型プラントの停止(2001年)を機に、事業の主体が核燃料の開発から廃止措置へと移って行った人形峠の施設内外の様子を紹介します。なお、当センターでは、廃止措置を着実に進めつつ、地域・国際社会への貢献を行うための仕組である「ウランと環境研究プラットフォーム」構想を取りまとめ、平成28年12月に公表しました。この構想については、地域の方々等からご意見やご提言を頂くための懇話会を設け、平成29年12月に懇話会としての認識が取りまとめられたところです。今後は、この構想を着実に進めるための研究計画を策定していきます。



鉱山開発の終了に伴い、鉱石中のウランを抽出するヒープリーチング施設を解体・撤去し、旧試験製錬所の鉱さいを受入れていた鉱さいたい積場のうち上流側の廃砂部(廃砂たい積場)の覆土措置を行いました。



### 遠心機処理設備での解体・除染作業(平成12年～)

パイロットプラント遠心分離機の撤去跡に設置した遠心機処理設備は、遠心機部品を除染して放射性廃棄物として扱う必要のないもの(クリアランス)にするほか、核開発につながる部品情報を判らなくする処理を行っています。



### 滞留ウラン除去設備(平成11-29年)

原型プラントの滞留ウラン除去設備は、プラント配管、機器内部に付着したウランをガス化回収して除染するとともに、ウラン量を計量して国際原子力機関に報告しました。



### 施設設備の解体・撤去(平成19年～)



### 解体後の製錬転換施設内

使用を終了した設備機器を解体・撤去し、ドラム缶などに収納して施設内に保管しています。製錬転換施設は、主要な設備機器の解体・撤去を終了し、現在は濃縮工学施設内(旧パイロットプラント)での作業に移っています。解体した機器などは、クリアランスや放射性廃棄物などに分別し、それぞれ処理を行っていく計画です。